

# 愛知山岳

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

2023年11月16日発行

No. 606号 (第55期 9号)

〒454-0055

名古屋市中川区十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX 052-654-1411

<http://aichirousan.web.fc2.com/>

## 各会合同清掃登山 報告



名古屋山岳同志会 10月22日(日)

岩古谷山～平山明神山周回 12名参加 不燃560g、可燃400g

駐車場は満車だったが、すれ違った登山者は3組のみで静かだった。

登山道にゴミは、ほとんど落ちてなかった。

アスレチックなコースでメンバー同士は賑やかに談笑しながら楽しく登ることができた。

### 《目次》

	各会合同清掃登山 報告	1
	各会の紹介と山行報告	2
遭対部	11/10(金)第55期第4回遭対担当者会議の報告	3
〃	積雪期救助訓練のお知らせ 1/22(月)机上 2/4(日)実技	3
教育部	第55期雪山安全講習会が始まりました!(10/30～)	3
〃	教育部 交流山行をします!(1/28)	4
組織部	第55期 第8回 組織担当者会議 報告	5
女性部	11月9日(木)に女性部会を開きました。	5
	全国連盟労山基金オンライン説明会(ZOOM)を受講して	6
	登山学校交流会報告	6
	お知らせ	9
	カレンダー	10

## 各会の紹介と山行報告 記事募集

各会の交流の機会として労山愛知の紙面を活用し、各会の山行の紹介や活動紹介をしていきます。各会の紹介では会の成り立ちや歴史、現在の活動の状況、困っている事や発展していることの要点などについて原稿にまとめていただき、各会の相互理解の機会として成果や教訓に学び合い、労山愛知紙上を活用し県連全体としても発展できるようにしたいと考えます。

各会の山行記録も各ホームページや会報を開くと素晴らしい山行や楽しそうな山行も沢山載っています。HPは誰でも見ることができ、主に一般の登山者が見ていると思われます。各会の会報は県連事務所の棚に配布されていますが、これは数が少ないこともあり、各会の会員の目に触れることは少ないかと思われます。その全てを労山愛知紙上に掲載することはできませんが、会からの投稿をいただき、又はピックアップして労山愛知に掲載していき、山岳会らしく山行の情報や写真を共有化してそれぞれの山行にも役立てていきたいと思えます。

会紹介記事と山行報告記事共に順次原稿を依頼していきますので、是非それに応えて投稿をお願いします。また、依頼分以外にも会からの投稿も歓迎しますので、積極的に投稿を募集します。山行報告・記事についてはハイキング・縦走・クライミング・雪山・沢登などジャンルをどんなジャンルの記事でも構いません。

## 各会の紹介と山行報告 第一回 あつた勤労者山岳会

### 専門部山行「猪臥山」に行って来ました！

あつた勤労者山岳会 松岡尚子

11月5日(日)、飛騨の猪臥山(1518.8m)に行って来ました。あつた労山ではほぼ毎月、各専門部が主催する山行があります。今回の猪臥山は運営委員長の企画で、11名の参加者がありました。

猪臥山はいくつかルートがありますが、この日は彦谷ルートから尾根道を登り、沢ルートの中道を下りました。紅葉は登山口付近こそ色鮮やかでしたが、標高が上がるにつれてだんだん終盤の感じでした。

よく整備された登山道はやや急な部分もありましたが、笹が刈り取られて歩きやすく整備頂いた方々に感謝です。山頂からは天気にも恵まれ360度のパノラマ。雪を被った立山から剣岳、北アルプスの稜線、白山など名だたる山々を見渡すことができました。

のんびり山頂で休憩してから中道で下ります。こちらはさらに歩きやすい道で、楽々駐車場まで戻ることができました。



今回は10月に入会したての会員も2名参加。先輩に歩き方の指導を受けながら、みんなと和気あいあい楽しく歩くことができました。

あつた労山では、2023年は9名の入会者があり、特に女性会員は30代から50代まで6名が入会され、それぞれ頑張っている。同期生という横のつながりを大切にしながら、これからも活躍して欲しいと願っています。

## **遭対部** 11/10（金）第55期第4回遭対担当者会議の報告

2023年11月10日（金）県連事務所で19:30より、第4回遭対担当者会議を開き、6山岳会8名が参加しました。【参加者】、名倉（くらら）、神崎、樋江井（若駒）、高井（春日井峠）、洞井、細江（半田）、松本（東三河）、佐藤（あつた）

内容は、冬山合宿に向けての各会の取り組み状況を話し合いました。

あつたは、新人も入って来て、トレーニングを行い、1月中旬位に取り組む。

若駒は、1月に合宿を取り組むスケジュールを立てている。東三河は、4パーティを1月に向けて取り組む。半田Fは、1月後半に向けて雪山セミナーなどを行い、取り組んでいる。

などの意見がありましたが、温暖化により雪が降らなくなってきているので、今まで通りの時期には出来なくなってきているので、各会で時期を含めて話していく事が必要では等の意見がありました。

今後の会議・講習会予定日

遭対担当者会議 ⑤2/2（金）

12月8日（金）冬山合宿連絡会議 1月19日（金）冬山合宿報告会議

11月12日（日） 東海ブロック雪崩講習会（机上）

1月13日（土）～14日（日） 東海ブロック雪崩講習会（実技）

## **積雪期救助訓練のお知らせ 1/22（月）机上 2/4（日）実技**

今年は、新型コロナウイルスが5類に移行して、登山が再開されるなかで山岳事故が大きく増えています。愛知県連も例外ではありません。万が一事故を起こした時、慌てずに救助できるように、皆で勉強しましょう。

机上 2024年1月22日（月）【ところ】県連事務所 19:30～

ZOOMでの参加もできます

実技 2024年2月4日（日）【ところ】御在所（積雪の状況により変更することがあります）

申し込み先：各会の理事、遭対担当者を通して、下記へ

県連遭対部長 佐藤和男（電話 090-2578-1525 か、e-mail [k-310-satou@dream.jp](mailto:k-310-satou@dream.jp) まで）

## **教育部** 第55期雪山安全講習会が始まりました！（10/30～）

第55期雪山安全講習会の講座が10/30（月）19:30より県連事務所（zoom会議含む）で始まりしました。今回はじめて県連事務所とzoom会議の併用で実施しました。10/30講座①は、県連事務所には4名、zoom会議では24名、合計28名の受講でした。

講師は、名古屋ありんこ山岳会の榊原が担当。前段に、冬山の厳しい自然条件について、実体験を踏まえながら話しました。また、服装・装備の重要性・ウェア・装備の役割や使い方を、テントの張り方・テント生活についてもスライドで学びました。最後に、「山岳遭難救助隊長にきく 冬山登山 最低限の心がけ」（動画）をみて、冬山登山の厳しさを再認識しました。

（ <https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg16516.html> 内閣府 net-TV です。）

この労山愛知が届く頃には講座③は終わっていますが、講座②④と実技山行はこれからですので、ぜひ冬山に向けて受講して下さい。よろしくお祈りします。

日程	テーマ	内容
講座④11月20日(月) 19:30～	冬山の危険と安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積雪期の事故の特徴(滑落、雪崩、低体温症、凍傷等)</li> <li>・事件事例から学ぶ/事故発生時の対応</li> </ul>
講座②12月11日(月) 19:30～	冬山の気象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の基本(高気圧、低気圧等)</li> <li>・冬山の天気の特徴(夏との違い)</li> <li>・雪が降る仕組み</li> <li>・冬の代表的な気圧配置</li> <li>・冬の天気の周期</li> <li>・高層天気図の見方</li> <li>・冬の遭難事例から見た天気</li> <li>・気象情報の見方、集め方</li> </ul>
打合せ12月4日(月) 19:30～20:50	実技山行打合せ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技山行実施要領&amp;山行計画書から、装備等の確認と役割分担</li> <li>・訓練内容の確認・交通/費用の確認</li> </ul>
実技山行(日帰り) 12月17日(日)	▲山域候補 千畳敷	・積雪の状況により山域の変更/日程の延期あり
実技山行(テント泊) 1月20-21日(土日)	▲山域候補 天狗岳	・積雪の状況により山域の変更あり

※講師の健康上の都合により、講座②の日程を変更しました。

## 教育部 交流山行をします!(1/28)

教育部で交流山行を計画しました。積雪期の岩場歩行やラッセルが体験できるコースとしましたので、奮って参加願います。

1. 日時 : 2024年1月28日(日) 8:00 集合
2. 集合場所 : 湯の山温泉ロープウェイ駐車場 (8:00 集合)
3. 申し込み : 愛知県勤労者山岳連盟教育部 (e-mail:aichirousan@gmail.com) 宛てに氏名、所属山岳会名を明記して1/14までにメールして下さい。
4. コース (コースタイム参考)  
 駐車場 8:00～中道登山口 9:00～御在所・朝陽台 11:30/12:00～国見峠 12:30～国見峠付近(ラッセル体験) 12:30-13:00～国見峠～裏道～藤内小屋 14:30～駐車場 15:30

(中道で積雪期の岩場歩行、国見峠付近でラッセル体験をします。)



## **組織部 第55期 第8回 組織担当者会議 報告**

2023年11月9日(木)

県連事務所：午後7時～9時00分

出席者：あつた(□松岡・■中川)、若駒(□中橋)、同志会(□吉川・■菅沼)、  
ありんこ(■榊原)・春日井(□落合)、

Zoom：東三河(□戸田)、じねんじょ(□後藤)、

### 1) 組織数の推移・入退会理由――

各会の組織数の状況 ――総会開催月3月末会員数846名に対して10月末861名、15名の増。特徴として、

- ①会員数減の会は2会のみで、8山岳会は会員数が増で、4山岳会が減となっている。
- ②会員増の会の内、3山岳会が10%を超える会員数の拡大となっているのは明るい兆しと言える。
- ③入会の動機では、山の仲間が欲しい、登山技術を学びたい、登山の幅・ジャンルを拡げたい、が多いのは順当。入会の動機の内、会員の紹介や旧会員の復帰が多いのも良い傾向と言える。

### 2) 趣意書の改定作業の報告、一全国連盟の趣意書検討委員会へのメモを提示しました。未討議。

### 3) 年間日程の確認。

組織部交流山行 ――2月4日(日)に予定する。 山城――未定

### 4) 第55期一般向け登山講座、―― 来期第56期に向けて検討事項

- ① 日程の検討、② 講習の内容の検討――について討議しました。

大まかな方針として、全体の日程を縮めてコンパクトに納める、

講座の数を6講座にする。危険個所の通過の実技は取り止め講座のみとする。実技の3日目を設け予備日とする。全体の構成として会員拡大を重視する。―――を確認しました。

### 5) 県連盟ホームページの件、――①写真の古い物は差し替える、

- ②記述部分の表現については検討する。

- ③各会のページの内、会員数、リンク先の変更、写真の入替えなどについては訂正する。―――こととしました。

### 6) 平和行進への取組み。―――2023年の平和行進への参加がコロナ禍の影響により減少していることから、3月7日(木)に原水協より講師を招いて学習会を開催する。

### 7) その他――三重労山再建・援助について方策を検討します。

## **女性部 11月9日(木)に女性部会を開きました。**

出席は6山岳会6名(くらら、あつた、みどり、春日井峠、若駒、同志会)

議題は11月23日(日)の女性部交流山行(飛騨地方・天蓋山)について。

参加者のグループ分けや役割分担、装備の確認などしました。計画書やメンバー表などはメールで連絡予定です。

※おかげさまで多くの参加希望があり、予定の30名を上回る38名参加となりました。チャーターするマイクロバスも1台増やして2台となります。

ご参加される方は集合時間AM7:00金山駅北イオン(旧ダイエー前)、参加費の5,000円を各会で徴収して、まとめて当日の会計担当にお支払いください。

# 全国連盟労山基金オンライン説明会（ZOOM）を受講して

11月8日(水)にオンラインで労山基金の説明会があり、160名（オンライン）での参加がありました。初めに労山基金運営委員長から遭対基金の歩みの説明があり、労山の基金の特徴が保険ではなく共済であることの意味を改めて考えさせられました。労山パンフレットの説明、労山基金と民間の山岳保険の違い、労山短期掛け捨て保険、等についての説明があり、また、事前に寄せられた質問に対する回答。Zoomからの質問の回答など、各会の労山基金に対して理解が深まった内容となった説明会でした。

労山基金・ココヘリと各種保険の比較

項目	労山基金			AUTHENTIC JAPAN(ココヘリ)		レスキュー費用保険	モンベル山岳保険	
	ココヘリ+個人5口の場合	個人5口の場合	団体5口の場合	正会員 (ジロー&ココヘリ統合プラン)	準会員 (ジロー会員)		スタンダードE112	シンプルF114
救助捜索費用限度額	500万円+550万円 遺体搬送30万円までを含む	200万円~250万円☆	500万円	550万円 遺体搬送30万円までを含む		300万円	100万円+追加補償30万円	
救済者費用	10万円			-	2023年6月からのジロー会員はかけつけ費用30万円までを含む		500万円 救助捜索を含む	
ヒトコ発信機貸与	あり	-	-	あり	-	-	-	-
死亡	100万円☆			-	-	-	200万円	5万円
入院補償限度額	84万円 (日額4,000円×210日)☆			-	-	-	-	
通院補償限度額	10万円 (日額2,000円×50日)☆			-	-	-	-	
傷害医療費用	-	-	-	-	-	-	100万円まで	-
後遺障害	-	-	-	-	-	-	200万円	2,000円~5万円
海外登山・傷病	国内同様に入院・通院が対象			-	-	-	国内同様。ただし6,000m以上は対象外	
海外登山救助捜索費用限度額	200万円			-	-	-	山岳登山は対象外。病気・疲労・悪天候や自然災害は対象外。	
携行品補償	3万円	-	-	3万円	-	-	-	-
個人賠償責任	1億	-	-	1億円	-	-	1億円	
年費用・保険料	10,500円	5,000円	10,000円	5,500円	2,200円+α	4,000円	16,010円	6,340円
備考	労山基金救助捜索費用限度額は国内は1000倍まで、海外は400倍まで ☆ハイキング5条件該当で交付特典あり ココヘリは初年度入会金3,300円	救助捜索費用限度額は継続1年毎に10倍アップ(400倍から10年継続で500倍まで) ☆ハイキング5条件該当で交付特典あり	全クラブ単位で登録可(1口2,000円) 救助捜索に特化 ※「個人」と併用可 ※会員が対象(「個人」未加入を含む)	初年度入会金3,300円	初年度入会金2,200円 α=年度終了後に事後分損金の精算あり 山行中の発病は100%補てん。既往症、持病は削減あり	救助捜索に特化 (YAMAPレスキュー保険は2022年10月に終了)	2021年より国内のみ病気・疲労・悪天候・自然災害等が原因による遺体も対象	

※2023年6月労山基金運営委員会にて調査。他社の保険については変更になる可能性があります。  
※組織内資料

## 登山学校交流会報告

じねんじょ山の会 岩田宗則

スケジュール

2023年10月21日(土)

13:00~ 宇都宮市森林公園湖森館集合

13:10~ 全国連盟からの挨拶

川嶋理事長、石川遭対部長、大和田国際部長、白井労山基金委員長、

柳川遭対部員(医師)から簡単な挨拶

ホストを代表し、八木沢栃木県連理事長から挨拶

13:30~ 石川遭対部長からの講義「ロープワークの基本」

14:15~ 参加者の自己紹介(全員)

- 14:45～ 登山学校・講習会の指導内容の情報交換  
16:00～17:00 宇都宮ハイキングクラブの滑落事故の詳細説明  
19:00～ 夕食後、懇親会  
2023年10月22日(日)  
8:15 湖森館前集合、事故現場へ移動  
8:40 現場検証  
10:00 現地にて解散

#### 参加者

愛知(2)： 岩田宗則(じねんじょ山の会)、樋口寿樹(名古屋山岳同志会)、  
栃木(7)：宇都宮ハイキングクラブ(2)、野木山想会(2)、山人クラブ(1)、マウント  
アンサンブル(1)、  
群馬(2)：モンテアルパインクラブ(1)、ぼんぼこ山の会(1)、  
東京(1)：練馬山の会 長野(1)：佐久山の会 岡山(2)：山陽カルチャーMC(2)  
山口(3)：登山サークルぼればれ(3)

#### 内容

##### (1) 講義「ロープワークの基本」

今回、ホストを担当する栃木県からのハイキング時における危険箇所通過に関する教育・指導方法に関する情報交換をしたいとの問題意識により、石川遭対部長がこのテーマでの講義を実施した。

内容的には、危険箇所通過時の簡単なロープワークに限定であり、特段報告に値する内容はなし。

栃木県連・群馬県連の高齢化及び会員の技能のレベル低下が激しく、リーダーの早期養成が喫緊の課題。これに応じる形で、石川遭対部長がこのような初歩的な内容のテーマを選定した。質疑応答では、リーダーはどのようなときにロープを出すべきか、とか、リーダーが技量不足でロープさばきもたつくようならばロープを出すのは却って危険だから出すべきでない、といったようなやり取りがなされた。

私見だが、ロープワークの基本に関する講義よりも、リーダー育成に関する方法論に関する議論の方がテーマとしてはよかったかもしれない。

大和田国際部長からは、「アルパインとハイキングではリーダーに求められるものが違うので一概には言えないが、アルパインの場合、リーダー養成は非常に難しく、同じ内容の講義をしても、そもそも本人にリーダー足りうる素質のあるなしの問題もあり、10人に一人がリーダーとして育成できれば御の字。アルパインでは、これはと思った候補者にそれこそ一子相伝的に教育しないとリーダーには育成できない。」との発言あり。

一方で、栃木県連の八木沢理事長からの発言は、「山ブームもあり、中高年のハイカーが増加しているが、その人たちを教育するリーダーが不足しているので、リーダー養成が喫緊の課題」というものであり、そもそも全国連盟と栃木県連の問題意識がすりあっていなかった。

##### (2) 登山学校の情報交換

岡山県。愛知県。東京都連から登山学校の内容を簡単に説明し、質疑応答実施。

愛知県に対しては、コーチの育成方法や課題に関して質問があった。岩田からは、受講生の高齢化にともない、将来を担う若い世代のコーチの育成が必ずしもうまくいっていない実情について説明。

アルパインのコーチの育成に関しては、どこの県連も大きな課題として問題意識を抱いているものの、時間と労力が必要であり、地道に取り組んでいく以外方法がないというのが総論と思われる。どこの会も、アルパインに関しては、個人山行で個別に育成していくことしか方法がなく、

会として組織的な育成をしている会はない模様。

CL資格の認定制度に関しては、ふわくのような一部の大クラブでは、資格制度を採用しているケースがある旨、連盟から紹介があったが、一般的には、数年たてば経験として会の山行のCLを任せていくというのが一般的であり、多くの会では、CLの力量を補うためにSLで力量のある人をつけてサポートする、ということで対応しているようだ。

登山学校の運営が愛知県のレベルで維持できているのは少なく感じられた。どこも会員の高齢化と技量面でのレベル低下に対し、有効な手立てが取れていない、というのが実情の模様で悩みを共有したにとどまった。

### (3) 宇都宮ハイキングクラブの滑落事故報告

翌日22日(日)に現場検証する滑落事故の詳細報告。

#### 【以下、概要】

事故発生日時： 2022年11月20日(日) 13:24ごろ

事故発生場所： 古賀志山北コース途中標高400m付近の枝尾根(岩場)

事故者： 登山歴は長いベテラン女性。約10年ぶりに岩を再開するにあたり岩トレ参加して被災。骨盤骨折の重傷。トプロープクライミングで下部ビレイヤによるローダウ途中、メインザイルが外れ、約6m滑落。

当日の研修実施内容： 研修部主催の「ハイキング楽校 第1回岩教室」

事故発生状況(事故被災者の証言)

- ・トプロープクライミングでの登攀・クライムダウンの練習。
- ・トプロープの支点は太い木に①150cmのスリングでガスヒッチ+安環付カラビナ×1で作成していた。事故後、スリングは残っていたが安環付カラビナは無くなっていた(※ 問題点 支点はこのひとつだけでバックアップは無し。当然スリングに付いていたであろう安環付カラビナは行方不明となっている。行方の確認は行われていない模様。)
- ・支点と同じ木でトプロープ約30cm程度下に、②120cmのスリング+安環付カラビナ×1でガスヒッチでセルフビレイ用の支点を構築済の状態。
- ・トプロープで登攀し支点に着いたら②を使い安環付カラビナをビレイループに取り付けセルフビレイセット、①は外す。クライムダウン時は下部ビレイヤにローダウンのテンションを委ねるため①はビレイループにセット、②は外す。という練習を行っていた。支点付近に人は置かれておらず安全確認は本人のみ
- ・メインロープのセットは時間短縮のため簡易法を採用。末端にエイトノットを作り、そこに安全環カラビナをひとつだけつけて、登攀者のハーネスのビレイループにつけるというもの。(※ 問題点 このような簡易法を採用する場合、カラビナは向きを逆にしてふたつかけるのが一般的。さらにクライミングジムではラビットノットが主流。)
- ・事故被災者の反省として下部ビレイヤにテンションをかけることを伝えれば良かったとあることからビレイヤとの意思疎通不足があり得る
- ・訓練の一環で、メインロープのついた安環をハーネスから外し、一旦、セルフビレイの支点にその安環(メインロープ)をつけかえてから、再度自分のハーネスにつけ直す、という意味の分からない危険行為を(訓練として)やっている。(※ ここで被災者は決定的なミスを犯し、自分のハーネスからメインロープ付安環をはずす際に、多分無意識で、メインロープを支点から外してしまい、支点にかかっていない状態のメインロープを自分のハーネスに付け直す、という行為をしたものと推測される。本人の供述では、こんなことはやっていないと否定しており真相はやぶの中だが、状況証拠からはそうとしか考えられない。)
- ・クライムダウンする際に、ビレイヤーに「降ります」のコールせずに、テンションの確認もしないまま、セルフビレイを解除し、クライムダウン開始。当然、転落。



被災者はビレイヤーがビレイしなかったからと主張しているが、支点からロープが外れているので、ビレイヤーのビレイの仕方云々は問題とはならない。どうして支点からはずれたか、だれが外したのかが問題だが、この会はその真相まで切り込む意思がないように感じた。このようなセッティングをしていること自体が大問題だし今回の場所で行うには技術面、安全面について会や指導層の力量範囲以上の訓練内容であったと考えられる。それぞれの会により必要だと考えられる訓練内容は違うことは理解できる。指導者の力量、安全面を考えれば安定した場所で行うべきであった。説明を聞いていて隔靴搔痒の感が否めなかったが、このハイキングクラブには、岩登りの基本知識を供与しないと、また同様な事故を起こしかねないのではないかと心配になった。だからこそ、リーダー養成の必要性を訴えているのであろうが……。中途半端な知識で岩登りをする怖さを実感した。

## お知らせ

### 労山カレンダーの申し込み受付

JWAF journal 10月号 既報のように2024年度版JWAFカレンダーの申し込みを受け付けています。頒価は1部700円。

申込先は各会理事、又は佐藤理事長、090-2578-1525 Mail (k-310-satou@dream.jp)

締め切りは11月19日(木) その後締め切りはMailにて案内します。

各会から直接申し込むこともできます。

### 県連ホームページに関するお願い

#### 1. 写真募集

県連盟ホームページの写真を募集します。

現在県連HPの写真は、人物の移っているものは会員の入れ替わりがあったりし、又服装も古くなっています。これらの写真は入れ替えたいと計画しています。

とっておきの写真、山中のスナップ、花の写真など、投稿を募集します。人物の入っている写真は被写体となっている方の了解を得ておいてください。

締切は当面ありませんが、ある程度の数が集まり次第、締め切りの案内をします。

#### 2. 加盟山岳会紹介欄の訂正

県連HPの加盟山岳会紹介の欄について。

変更・訂正箇所について、連絡ください。各会のHPのリニューアルなどに伴いリンク先アドレスの変更、会員数の変更(男・女人数)、使用している写真の変更などについて、変更点・写真連絡をください。締め切りは12月3日(日)とします。

送付先はメールにて [aichirousan@gmail.com](mailto:aichirousan@gmail.com) (確認の返信を入れるようにします。)

【編集後記】 そういえば毎年秋になると大発生して、洗濯物にくっついて家に入ってきては、とても不快な思いをさせられる丸い小さなカメムシが、今年はほとんど見られませんでした。どうしたのかな？ 居なければ居ないで何か少し心配な気持ちになります。(事務局 井土)

ご意見、ご要望・投稿・写真などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com

Schedule 2023-24

12 月		2024 年 1 月		2 月	
1	金	1	月	1	木
2	土	2	火	2	金 遭対担当⑤
3	日	3	水	3	土
4	月 雪山安全講習会 実技山行打合せ	4	木	4	日 積雪期救助訓練実技
5	火	5	金	5	月
6	水	6	土	6	火
7	木 組織担当者会議⑨ 女性部部会⑨	7	日	7	水
8	金 冬山合宿連絡会議	8	月 (成人の日)	8	木 理事会⑬
9	土	9	火	9	金
10	日	10	水	10	土
11	月	11	木 理事会⑫	11	日
12	火	12	金	12	月 (建国記念の日)
13	水	13	土 東海 B 雪崩講習	13	火
14	木 理事会⑪	14	日 東海 B 雪崩講習 交流山行(組織部)	14	水
15	金 自然保護担当⑥	15	月	15	木 組織担当者会議⑪ 女性部部会⑪
16	土	16	火	16	金
17	日 雪山安全講習会 実技山行(日帰り)	17	水	17	土 第 36 期全国総会
18	月	18	木 組織担当者会議⑩ 女性部部会⑩	18	日 第 36 期全国総会
19	火	19	金 冬山合宿報告会議	19	月
20	水	20	土 雪山安全講習会 実技山行(テント泊)	20	火
21	木 全国理事会 教育担当者会議⑨	21	日 雪山安全講習会 実技山行(テント泊)	21	水
22	金	22	月 積雪期救助訓練机上	22	木
23	土	23	火	23	金 (天皇誕生日)
24	日	24	水	24	土
25	月	25	木 教育担当者会議⑩	25	日
26	火	26	金 自然保護担当⑦	26	月
27	水	27	土	27	火
28	木	28	日 交流山行(教育部)	28	水
29	金	29	月	29	木 理事会⑭
30	土	30	火	3 月	
31	日	31	水	3 日	第 56 期総会